

川崎病患児に於ける血漿 Thromboxane B₂ 値の経時的変動について

明和病院小児科 播磨 良一、吉本 智子、児嶋 茂男

大阪大学第1内科 大森 正晴、葛谷 恒彦、多田 道彦

大阪大学小児科 小川 実、藪内 百治

動物実験で冠動脈を傷害すると Thromboxane B₂ (以下 TXB₂) 値が増加するといわれており、成人の冠動脈疾患 (心筋硬塞、狭心症) の発病初期に TXB₂ 値が増加すると報告されている。また最近、川崎病発病初期に TXB₂ 値が高値をとるものもあるとの報告がある。我々は、プロスタグランジン系に影響を与えない状態での川崎病の TXB₂ 値の変動をみるため、ワーファリンを投与し、発病初期より経時的に採血し TXB₂ 値を測定した。また冠動脈障害群と異常なしの群に分けて TXB₂ 値の比較を行なった。アスピリン投与群についても、TXB₂ 値の検討を行なった。対象及び方法：川崎病初発患児 22 例について、発病後 2 カ月までできるだけ毎週採血し、RIA 法にて血漿 TXB₂ 値を測定した。冠動脈障害の判定は、断層心エコーにて行なった。ワーファリン投与群は 17 例で、冠動脈障害群 3 例 (冠動脈瘤 1 例、一過性拡張 2 例)、冠動脈に異常のない群 14 例であった。アスピリン投与群は 5 例で、全例に冠動脈異常を認めなかった。発病 12 週以後の川崎病 12 例 (冠動脈瘤 10 例、異常なし 2 例) では、ワーファリン使用中又はアスピリン休薬後 10 日以後に採血、健康成人 88 についても TXB₂ 値を測定した。結果：図 1 はワーファリン投与群の TXB₂ 値の経時的変動をみたものである。12 週以後の川崎病の TXB₂ 値は 90 ~ 315 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 、平均 184 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 、健康成人では 143 ~ 313 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 、平均 228 $\mu\text{g}/\text{ml}$ であった。冠動脈異常なしの群 (×印) の経時変化をみると、第 1 週 232 $\mu\text{g}/\text{ml}$ と低く、2 ~ 5 週では 282 ~ 448 $\mu\text{g}/\text{ml}$ と高値をとり、6 週以後は低下する傾向にあった。第 1 週で低値を示したのは、アスピリン等の解熱剤投与による影響と考えられる。冠動脈障害群 (○印) では、3 ~ 7 週で 369 ~ 523 $\mu\text{g}/\text{ml}$ と異常のない群より高値をとっていた。図 2 は、急性期 (2 ~ 3 週) と回復期 (6 週以後) の TXB₂ 値の平均値の変動をあらわしたものである。第 1 週を除いたのは、解熱剤投与による影響を除外するためである。ワーファリン使用群で冠動脈障害群 (○印) の急性期平均 TXB₂ 値は 445 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 、回復期 369 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 。冠動脈異常なしの群 (×印) の急性期は 362 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 、回復期 280 $\mu\text{g}/\text{ml}$ であり、冠動脈障害群では急性期、回復期共に高値を認めた。また両群共、急性期の方が回復期より高値を示した。アスピリン投与群 5 例の急性期平均 TXB₂ 値は 316 $\mu\text{g}/\text{ml}$ であり、回復期は現在測定中である。

アスピリン投与群および他の治療薬剤投与患児についても、TXB₂ 値の変動を検討する予定である。また発病初期の TXB₂ 値が高値のものに冠動脈瘤が多いという報告があるが、これについても今後検討する予定である。

図1 ASPIRIN非使用群(ワーファリン使用群)(17例)に於けるTXB₂値の経時的変動

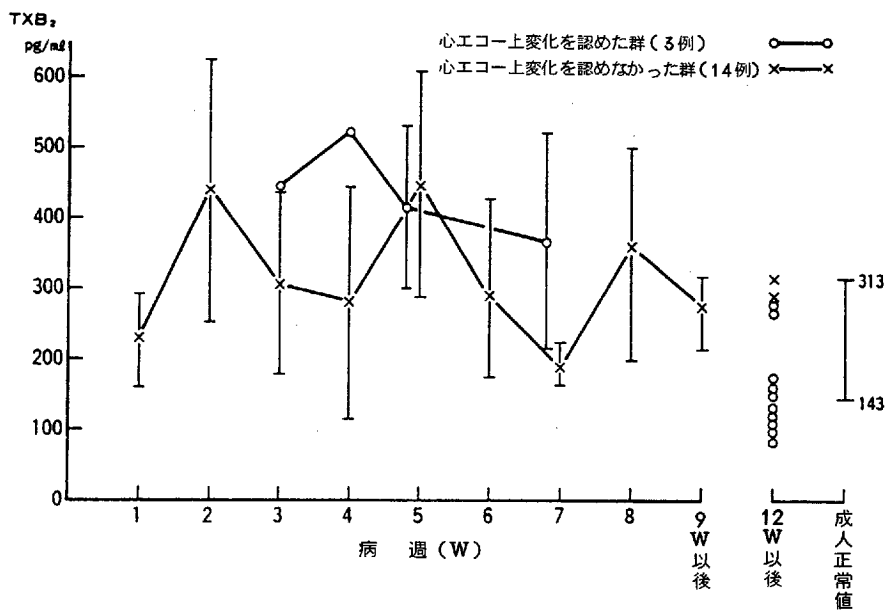
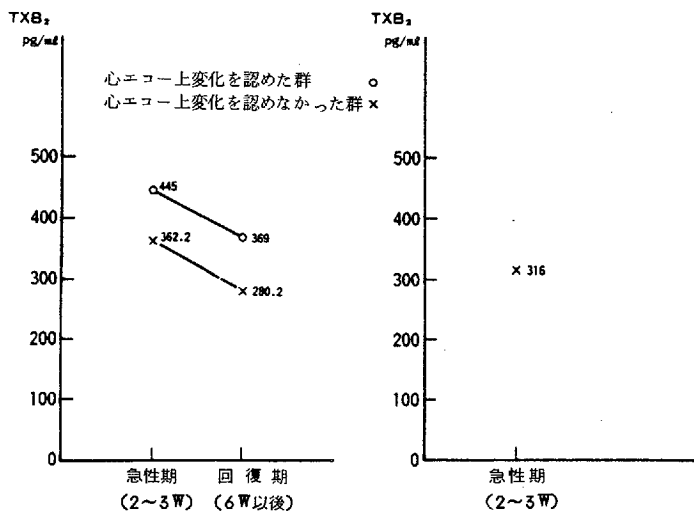


図2 ASPIRIN非使用群(ワーファリン使用群)17例に於ける急性期, 回復期のTXB₂ 平均値

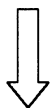
ASPIRIN使用群5例に於ける急性期のTXB₂ 平均値





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



動物実験で冠動脈を傷害すると Thromboxane B₂(以下 TXB₂)値が増加するといわれており、成人の冠動脈疾患(心筋硬塞、狭心症)の発病初期に TXB₂ 値が増加すると報告されている。また最近、川崎病発病初期に TXB₂ 値が高値をとるものもあるとの報告がある。我々は、プロスタグランジン系に影響を与えない状態での川崎病の TXB₂ 値の変動をみるため、ワーファリンを投与し、発病初期より経時的に採血し TXB₂ 値を測定した。また冠動脈障害群と異常なしの群に分けて TXB₂ 値の比較を行なった。アスピリン投与群についても、TXB₂ 値の検討を行なった。